

ウリ類退緑黄化ウイルスに感染したスイカの病徴

ウリ類退緑黄化ウイルスが感染したスイカでは、初期症状として葉に不鮮明な退緑斑紋が生じ、次第に葉全体が黄化する。さらに進展すると葉の周辺や葉脈間にえそを生じ枯死するスイカ特有の病徴を示す。

農業研究センター生産環境研究所病害虫研究室(担当者：森山美穂)

研究のねらい

平成16年から発生しているメロンおよびキュウリの黄化症状は、タバココナジラミバイオタイプQが媒介するウリ類退緑黄化ウイルス(Cucurbit chlorotic yellows virus 以下CCYV)が原因で発生する病害であることが明らかになった。本ウイルスは、スイカにも自然感染するが、その病徴は不明である。そこで、接種試験を行い、スイカにおける病徴を明らかにする。

研究の成果

1. タバココナジラミバイオタイプQでCCYVを接種すると、接種20日後から接種葉より上位の葉に不鮮明な退緑斑紋を生じる(写真1, 図)。
2. 退緑斑紋は拡大しながら黄化し、葉脈に緑色部分を残した黄化葉となる(写真2)。以上の病徴はメロンやキュウリと類似している。
3. スイカではメロンやキュウリと異なり、黄化症状から病徴がさらに進展し、えそ斑が葉の周辺または葉脈間から生じ、激しい場合は葉が枯死する(写真3)。
4. これらの病徴は現地の発生ほ場の病徴と一致する。(写真4)。
5. 果皮に病徴は認められない。
6. 症状は初発葉から上位葉へと進展する(図)。

普及上の留意点

1. 収穫に発生する生理障害や株の衰弱による葉の黄化や枯死とは、不鮮明な退緑斑紋の有無で区別できる。
2. メロン退緑黄化病の対策を参考にタバココナジラミを防除し、感染を防止する。

【具体的データ】



写真1 不鮮明な退緑斑紋症状



写真2 葉脈に緑色が残る黄化葉



写真3 黄化葉に発生したえそ斑



写真4 収穫期における現地の発生ほ場

接種後日数	+ 25		+ 35		+ 60		+ 120	
全葉数	14	13	21	20	36	35	78	79

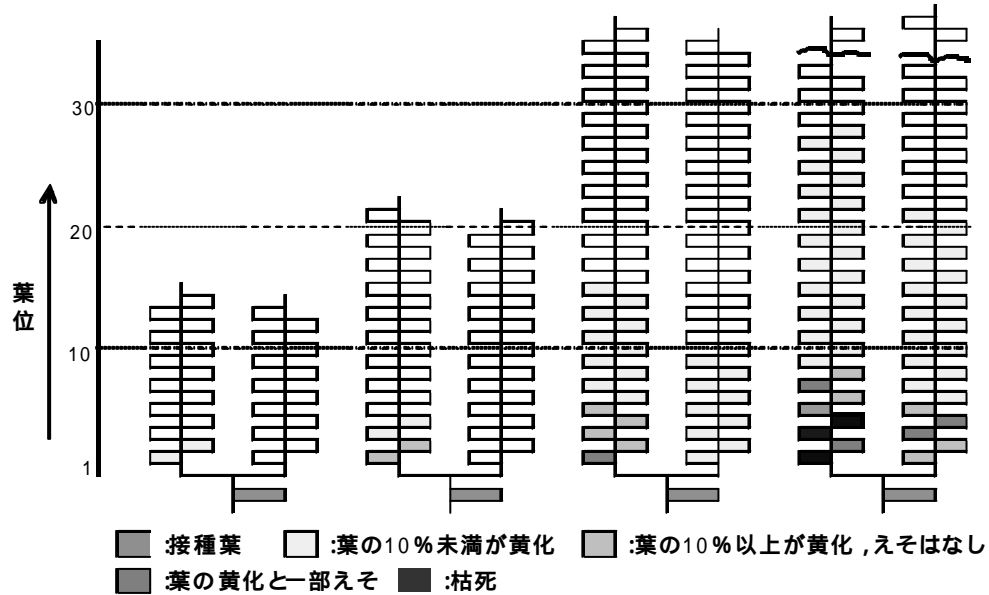


図 感染株における病徴の進展

育苗期にCCYVを保毒したタバココナジラミバイオタイプQで接種した株を定植し，発病の推移を観察した。